

# 精神科作業療法士交換研修の 取り組みと成果，課題について

塚原 宏恵<sup>†</sup>第77回国立病院総合医学会  
2023年10月20日 於 広島

IRYO Vol. 78 No. 6 (366-369) 2024

## 要旨

医療の進歩に合わせて、卒後教育は医療の現場では必須である。国立病院機構（NHO）九州グループには単科精神科が3施設あり、グループ内では異動はあるも、相互の交流は乏しい状況にあった。養成学校を卒業し各施設に配置される若いセラピストをそれぞれの施設で育てていくが、その教育はそれぞれの施設に任されていた。そのような中で九州グループでは2009年度より精神科交換研修を実施している。目的を1. 各施設の利点を活かし、一定期間職員を交換し相互に影響を与え合う関係を構築し、理念と方法の交換を行う。もって全体としてのリハビリテーションの質的向上と均質化を目指す。2. 若年者が多い作業療法士のスキルアップの機会とする。経験が浅いうちに他施設の文化にふれ、職員と業務をともにすることを通じ、リハビリテーションの理解を広げ、深めることができる機会とする、としている。研修による診療報酬減を極力抑えることを考え、併任辞令を持って赴いた施設での診療業務を担うことができるとし、その研修開始においてはグループの協力を得ながら行った。研修生や実施した施設の院長からは他施設を知る機会となり、交流や視点の広がりを得たと一定の評価を得る一方、研修生の選定や研修内容、研修後どのように臨床に活かしていくかなどの課題が見え、また若い人の採用が減る中で若いセラピストの研修との目的も経過とともにそぐわなくなっている。臨床の現場で相互に交流しながら行う研修は必要で、NHO だけに行える研修であると考えられた。また、NHO が担うセーフティネット領域においては机上ではなく現場で行う研修はセラピストを育てていく上でとても重要であると考えられた。

キーワード 卒後教育，セーフティネット，作業療法士

## 九州グループ精神科3施設の状況

国立病院機構（NHO）九州グループには28施設があり、そのうち単科精神科施設が3施設ある。佐賀県に肥前精神医療センター、熊本県に菊池病院、沖縄県に琉球病院があり、物理的にもそれぞれ距離

がある。3施設の規模は、病床数は肥前精神医療センターが多く菊池病院の倍以上となり、中間に琉球病院が位置するが、菊池病院との病床の差は100床以上になる。セラピストの数も菊池病院は肥前精神医療センターや琉球病院と比べ半分の人数になる。規模が異なるので、施設の機能にも違いがあるが共

国立病院機構菊池病院 †作業療法士

著者連絡先：塚原宏恵 国立病院機構菊池病院 〒861-1116 熊本県合志市福原208

e-mail : tsukahara.hiroe.sp@mail.hosp.go.jp

(2024年3月21日受付 2024年8月2日受理)

Actual Outcomes, Results, and Challenges of Exchange Training for Psychiatric Occupational Therapists

Hiroe Tsukahara, Kikuchi National Hospital

(Received Mar. 21, 2024, Accepted Aug. 2, 2024)

Key Words : postgraduate education, safety net, occupational therapist